

ヨシヤ記
聖徒伝 64

「御国の相続を 待ち望みつつ」

ヨシヤ記16～19章
相続地の割り当ての完了

【今日のアウトライン】

0. イントロダクション

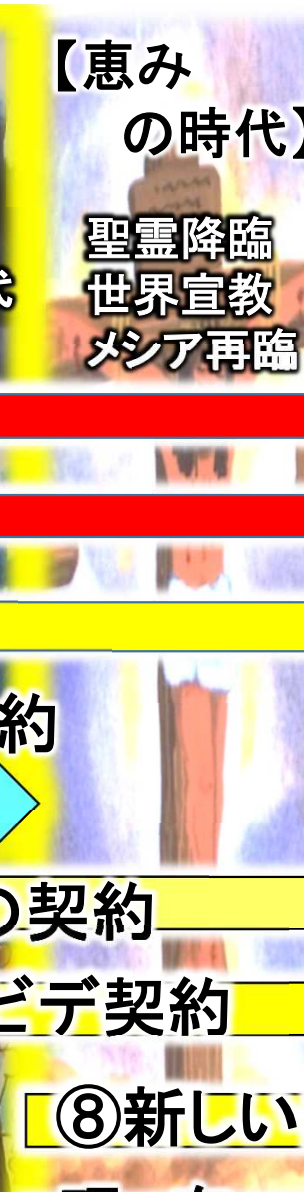
I. ヨセフ族の相続地 16～17章

II. 残り七部族の相続地 18～19章

III. まとめと適用

ヨシュアが手にした真の相続地
御国の約束に立ちつつ





【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル
王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

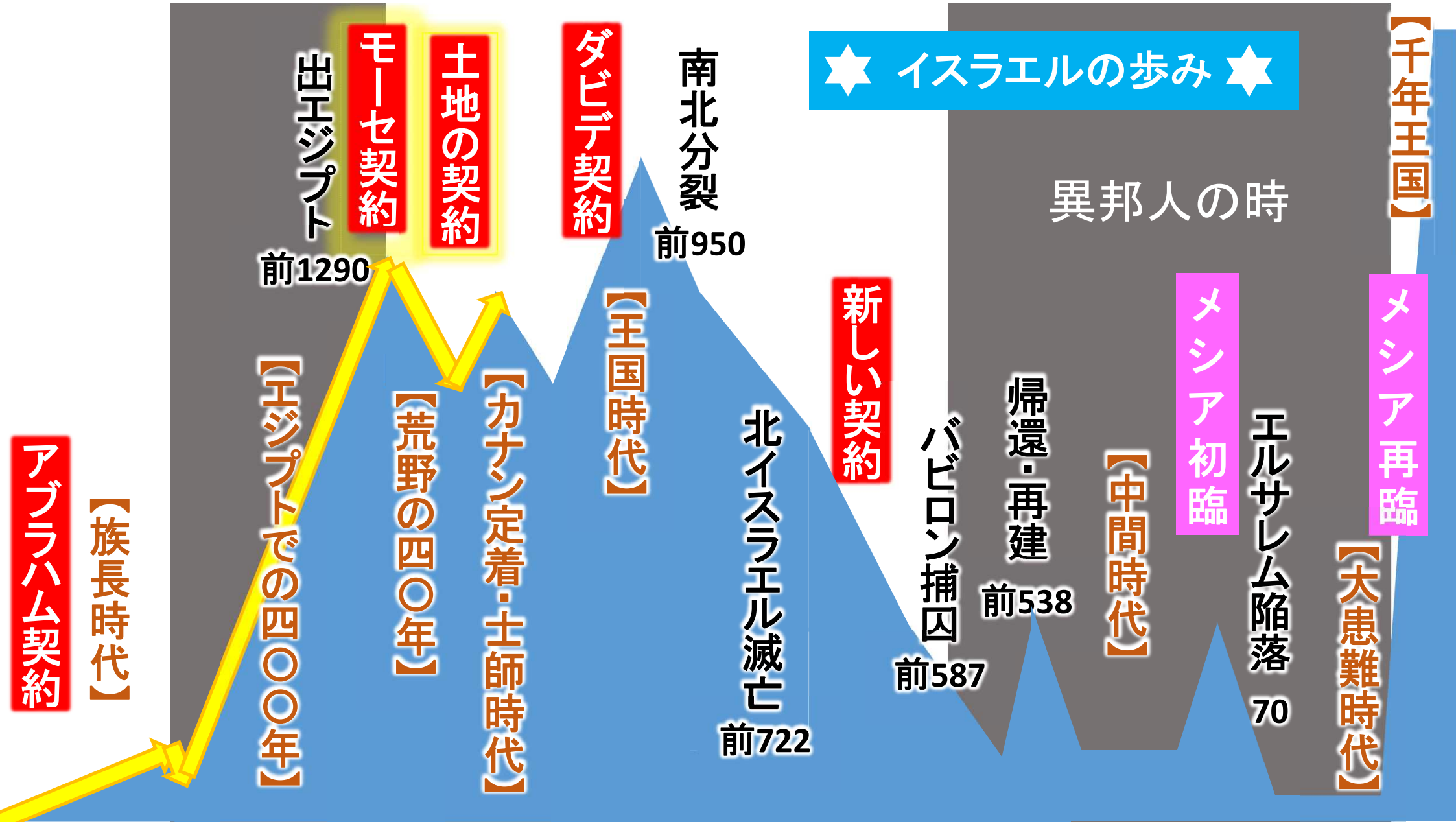
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★ イスラエルの歩み ★



異邦人の時

【千年王国】

メシア再臨

【大患難時代】

エルサレム陥落 70

メシア初臨

【中間時代】

帰還・再建 前538

バビロン捕囚 前587

新しい契約

北イスラエル滅亡 前722

南北分裂 前950

【王国時代】

ダビデ契約

【カナン定着・士師時代】

【荒野の四〇年】

【エジプトでの四〇〇年】

アブラハム契約

【族長時代】

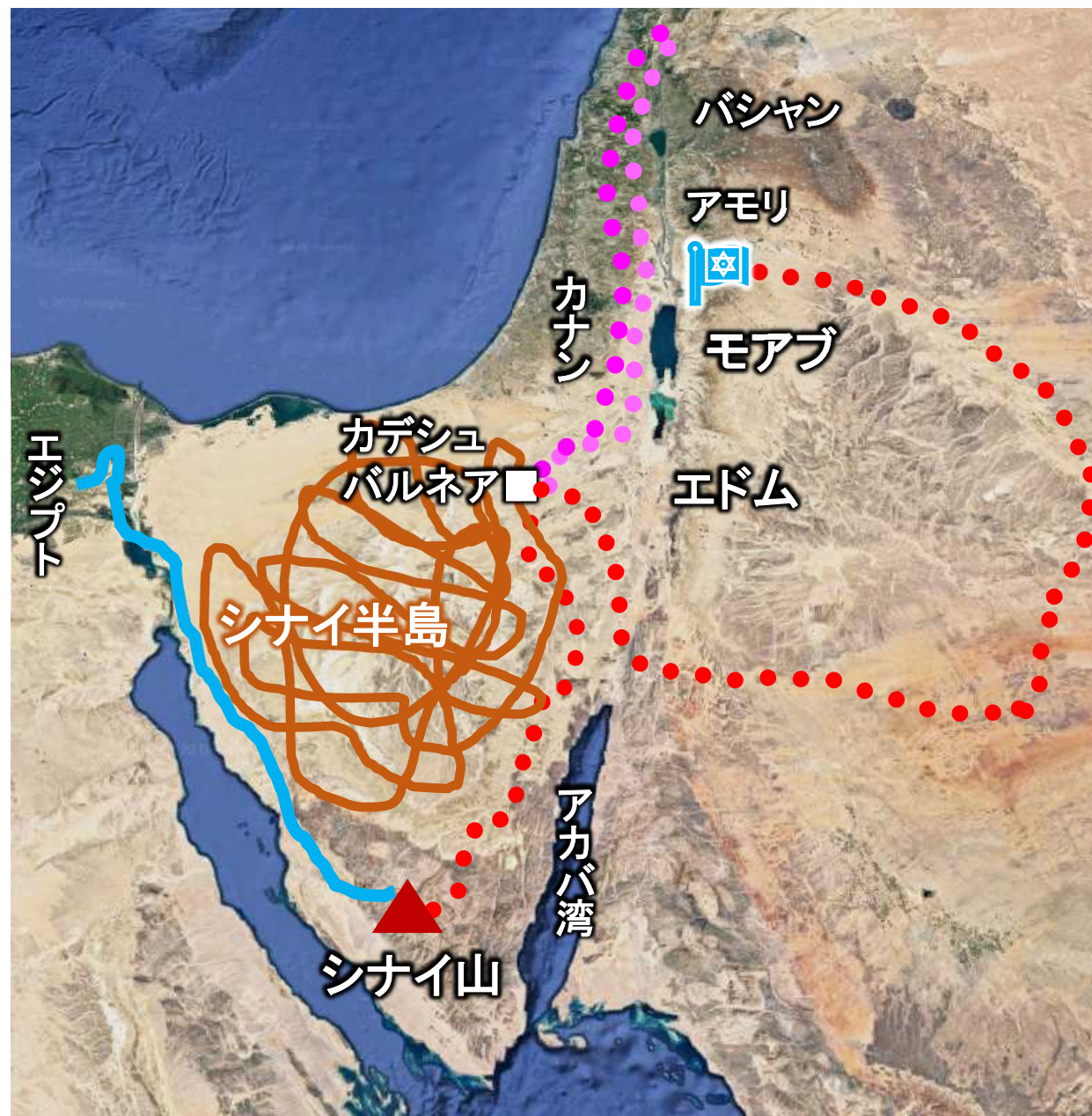
【イスラエルの荒野の40年】

■ エジプトを脱出、シナイ契約を結び、律法を与えられ、神の民となったイスラエル。

■ しかし、神に反逆し、その世代の者は、荒野で死に絶えた。

■ 40年の放浪の末、約束の地ヨルダン川東岸に到達した。

■ カナンの東部を征服し、いよいよヨルダン川を渡った。



【戦術的に見る、カナン征服戦争】 1～13章

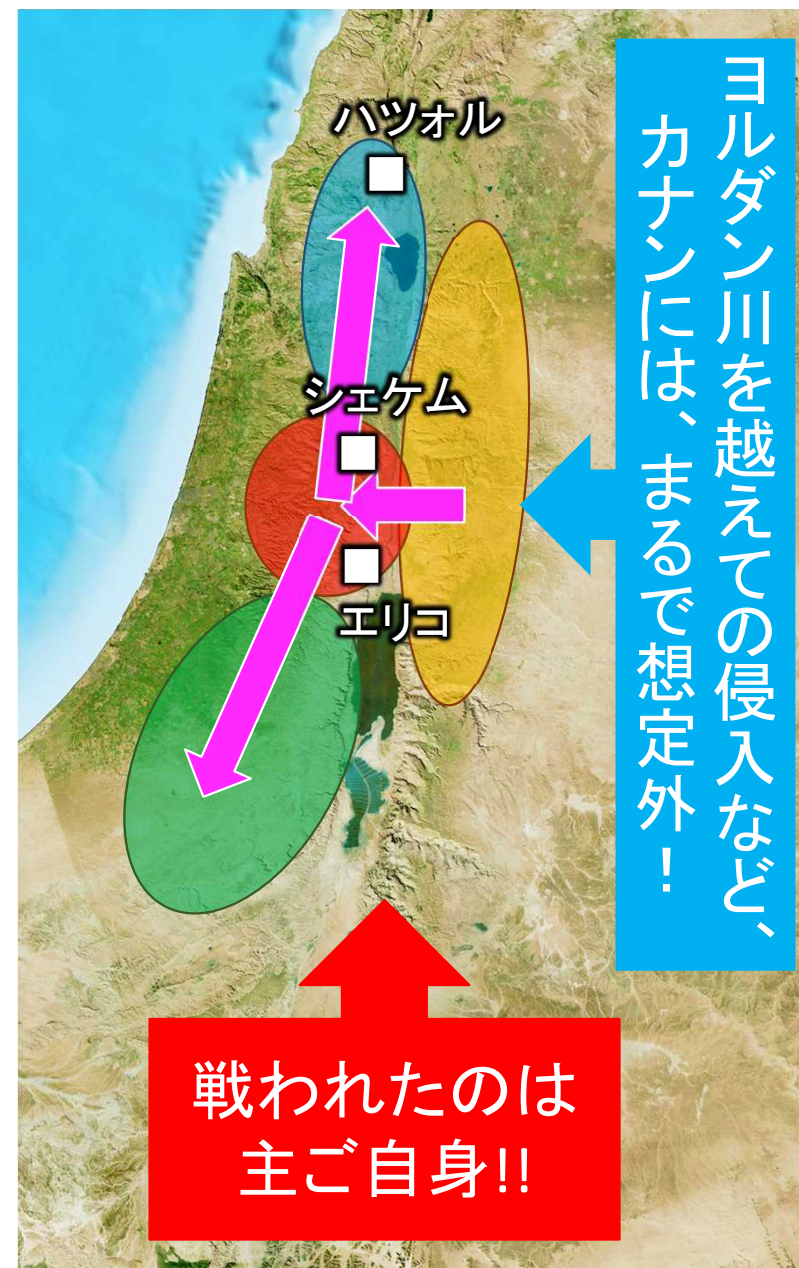
■ カナンの戦いは基本的に攻城戦。

城壁で囲まれた町々を攻略していった。

➡ 通常、膨大な戦力と物資、時間が必要。
前の砦を落とさなければ、進めない。

■ イスラエルの進軍ルート

- ① ヨルダン川東部 ➡ 後顧の憂いをなくす
- ② 中央部 ➡ 干上がったヨルダン川を渡り、
不意を突き、最大勢力を撃破
中央部を押さえ、敵勢力を分断
- ③ 南部 ➡ 南部の諸民族を撃破
- ④ 北部 ➡ 北部の諸民族を撃破

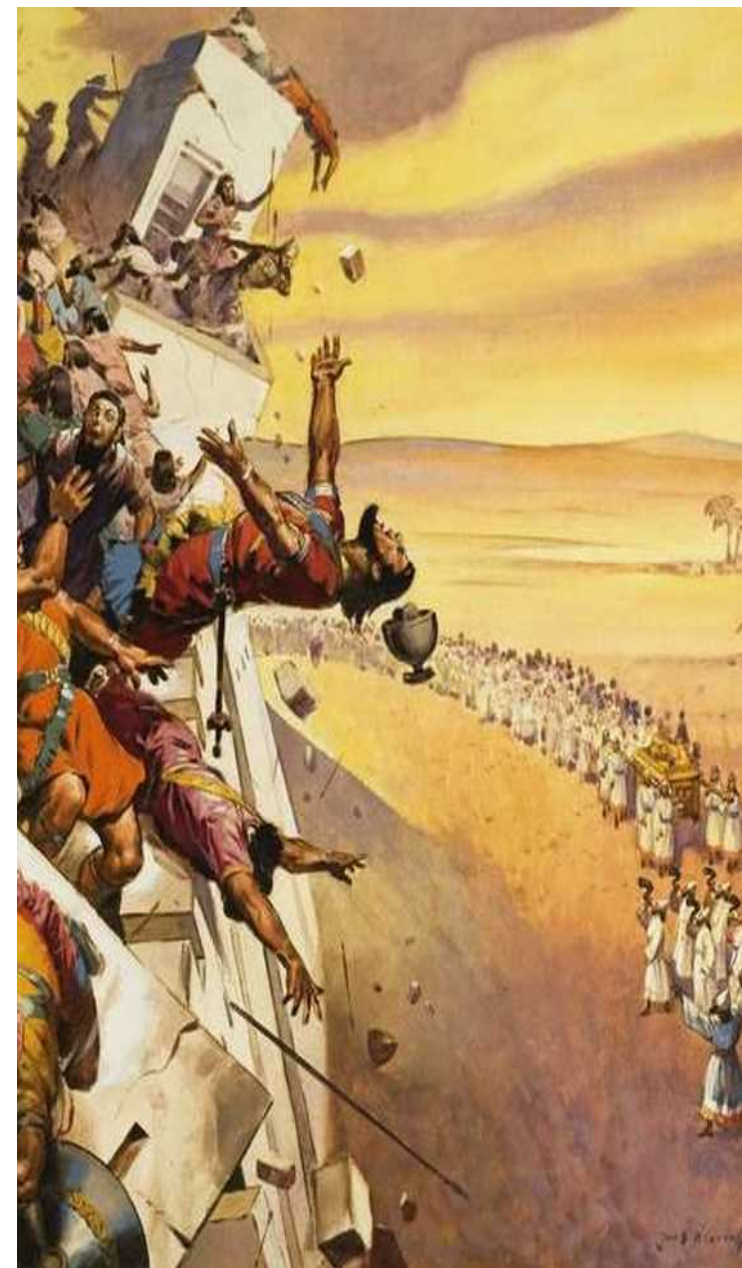


【歴史の中で、厳正に下されてきた神の裁き】

- ① 大洪水による全地の裁き
- ② バベルの塔事件で全地に散らされた
- ③ ソドム・ゴモラへの裁き
- ④ エジプトへの裁き
- ⑤ カナンへの裁き

■ 義なる神は、悪を放置しては置かれない。
一方で、十分過ぎるほどの猶予期間を与え、
悔い改めを促される。主は愛の神でもある。

■ いよいよ主の裁きが下される時、
人が言い逃れる余地はない。



【残された地】 ヨシュア13:1~2

ヨシュアは年を重ねて老人になっていた。

【主】は彼に告げられた。「あなたは年を重ね、老人になった。しかし、占領すべき地は非常にたくさん残っている。

残っている地は次のとおりである。」

■ エリコの戦いから5年。ヨシュアは85歳。

■ アブラハムに約束された地は、
南はナイルの支流から、
北は、ユーフラテスに至るまで

すべてを支配するのは、千年王国において



【割り当てられた相続地】 ヨシュア14:1～5

イスラエルの子らがカナンのでゆずりとして受け継いだのは、次のとおりである。祭司エルアザルと、ヌンの子ヨシュアと、イスラエルの子らの部族の一族のかしらたちは、その地を彼らに相続地としてくじで割り当てた。【主】がモーセを通して、九部族と半部族について命じられたとおりである。

- 14章以降、相続地の分割が記される。
- 12部族それぞれに、分割地が定められた。
- レビ族だけは例外。祭司や奉仕者として、神に直接仕えるレビ族には、神ご自身が嗣業。



I. ヨセフ族の相続地

ヨシュア記16～17章

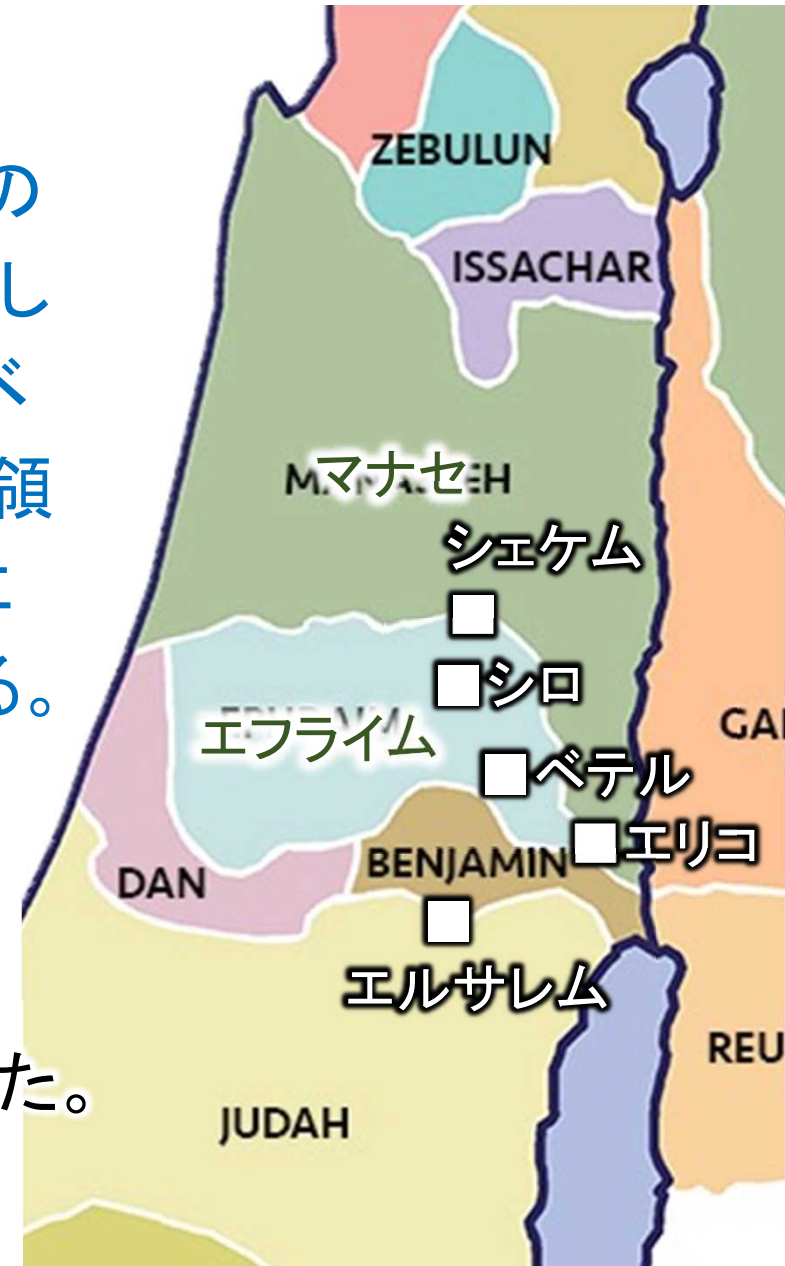


【ヨセフ族の相続地】 ヨシユア16:1～3

ヨセフ族にくじで当たった地の境界線は、エリコのあたりのヨルダン川からエリコの泉の東側へ、そして荒野の方へ向かい、エリコから上って山地のベテルに至り、ベテルからルズに出てアルキ人の領土アタロテを過ぎ、西の方、ヤフレテ人の領土に下り、下ベテ・ホロンの地境、さらにゲゼルに至る。その終わりは海である。

■ヨセフ族 = マナセ族 + エフライム族

ヤコブは、ヨセフに長子権と二倍の祝福を与えた。
さらに、次兄のエフライム族に長子権が。



【エフライム族の相続地】 ヨシュア16:1～3

■ エフライム族は、長子権を継ぎ、ユダ族に並ぶ勢力。

■ 重要ないくつかの町を含む。

★ シェケム ... アブラハムの最初の礼拝地。

律法の碑が設置された。

★ シロ ... この後、長らく契約の箱が置かれていた。

★ ベテル ... ヤコブがアブラハム契約を継承した。

■ マナセ族との境界に、シェケムの町がある。

★ 祝福を置いたゲリジム山は、エフライム側。

呪いを置いたエバル山が、マナセ側。

➡ 後、サマリヤ人は、ゲリジム山に神殿を建てた。

サマリヤの女が言った「この山(ヨハネ4:20)」



【エフライム族の未征服地】 ヨシュア16:10

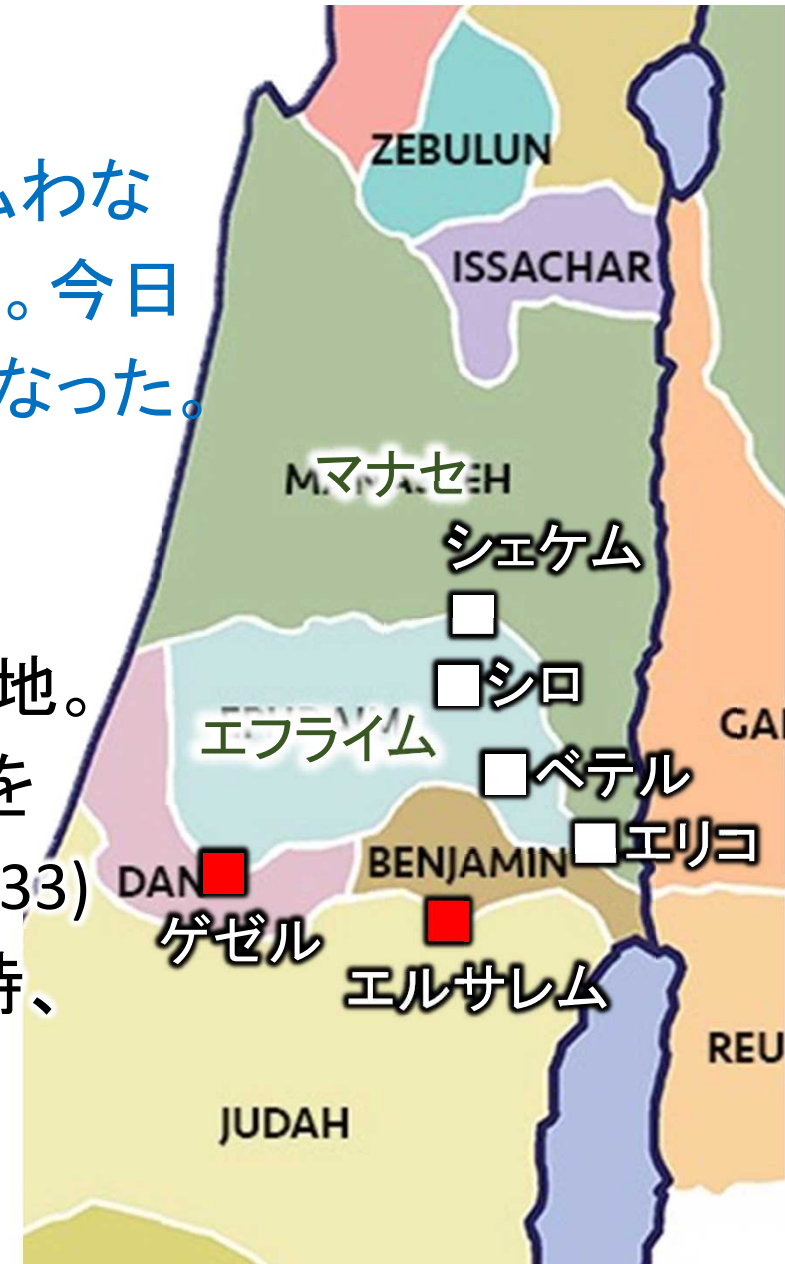
ただし、彼らは、**ゲゼル**に住むカナン人を追い払わなかった。カナン人はエフライムのただ中に住んだ。今日もそうである。カナン人は強制労働に服すことになった。

■ **ゲゼル** ...南西のダン族との境にある町。

東西、南北の交易路が通る要衝の地。

■ 南部の戦いでゲゼルの王ホラムが、ラキシユを援護して参戦、打ち破られている(ヨシュア10:33)

■ 後、エジプトによって支配され、ソロモン王の時、エジプトから結婚の贈り物として与えられた。ソロモンは、重要基点として要塞を建築。



【マナセ族の相続地】 ヨシュア17:1～11

- すでに得ていたヨルダン川東岸北部に加え、ヨルダン川西岸にも土地を得たマナセ族。
- ツェロフハデの5人の娘たちが、モーセを通して約束を取り付けた相続地を得ている。(17:4)
 - ★ツェロフハデは息子のないまま死去。
残された5人の娘達の訴えにより、彼女らも、同族の男子を夫とすることを条件に、相続地を得ることを認められた。
- 男子の相続者がいなかった場合、近親の責任ある者が、土地を相続することが定められた。



受け継がれていく
神の約束の相続地

【マナセ族の未征服地】 ヨシュア17:12～13

■ マナセ族の相続地の中にも、まだ多くの未征服の町が残っていた。

■ その最大の町が**メギド**。

アジアとアフリカをつなぐ交易路の最重要拠点。

古代から争いの絶えなかった地にある要塞都市。

★**メギド**には、今も残る要塞の遺跡がある。

それが、ハル・メギド(メギドの丘)

➡ハルマゲドン(最終戦争)の語源。

大患難時代の最後、反キリストが、
世界中の軍隊を集結させる地。



【不平を訴えるヨセフ族】 ヨシュア17:14～18

■ヨセフ族は、他の土地をよこせと、ヨシュアに不平を言った。所有地の多くは、山地であり、耕作地は少ない。平地には鉄の戦車を持つ強敵がいる。

➡これは、結局は神に対する不平。

■ヨシュアは、同族の訴えも公平に取り扱った。

山地を切り開き、平地のカナン人と戦い、追い払うようにと命じた。

■どんなに困難な試練でも、主が命じられたことなら、踏み出して行かなければならない。

➡勝利は約束されている。結果を見れば、困難に見えた道こそ、最善であり、最短だったと分かる。



ハル・メギド
(メギドの丘)

Ⅱ. 残り七部族の相続地

ヨシュア記18～19章



幕屋が張られたシロ

【ヨシュアの激励】 ヨシュア18:1～10

イスラエルの子らの全会衆はシロ*に集まり、そこに会見の天幕を建てた。この地は彼らに服していたが、イスラエルの子らの中に、相続地を割り当てられていない七部族が残っていた。ヨシュアはイスラエルの子らに言った。「あなたがたの父祖の神、【主】があなたがたに与えられた地を占領しに行くのを、あなたがたはいつまで延ばしているのか。」

* **シロ** ...エルサレムが都となるまで幕屋が張られた。

■ ヨシュアは、未征服地に偵察隊を派遣した後、残り7部族の相続地をも、くじ(神託)によって決めた。



【①ベニヤミン族の相続地】 ヨシュア18:11～28

■7部族の最初に、ベニヤミン族がくじを引いた。

■ベニヤミンは、ヤコブとラケルの末子。ヨセフの弟。

➡相続地はヨセフ族の南に置かれた。

■小さな土地だが、重要な町が含まれていた。

★エリコ ★ベテル そして、★エルサレム

➡エルサレムは、ベニヤミン族とユダの境界。

ベン・ヒノムの谷を挟むとベニヤミンの側。

■小さくとも勇壮な民族として知られたベニヤミン。

➡あの使徒パウロも、ベニヤミン族出身。



【②シメオン族の相続地】 ヨシュア19:1～9

■次男だったシメオンは、レビと共にシェケムで虐殺を行い、相続地に関して報いを受けることが、ヤコブに預言された。「創 49:7 のろわれよ、彼らの激しい怒り、彼らの凄まじい憤りは。私はヤコブの中で彼らを引き裂き、イスラエルの中に散らそう。」

→シメオンの相続地は、広大なユダ族の領地の中に、点在して与えられることになった。

■南部最大の町ベエル・シェバは、シメオンとユダで共有された。



【③ゼブルン族の相続地】 ヨシユア19:10～16

■ ヤコブの第10子、レアの子がゼブルン。

ガリラヤ湖の西の丘陵地一帯を得た。ナザレもこの地

【④イッサカル族の相続地】 ヨシユア19:17～22

■ ヤコブの第5子、レアの子がイッサカル。

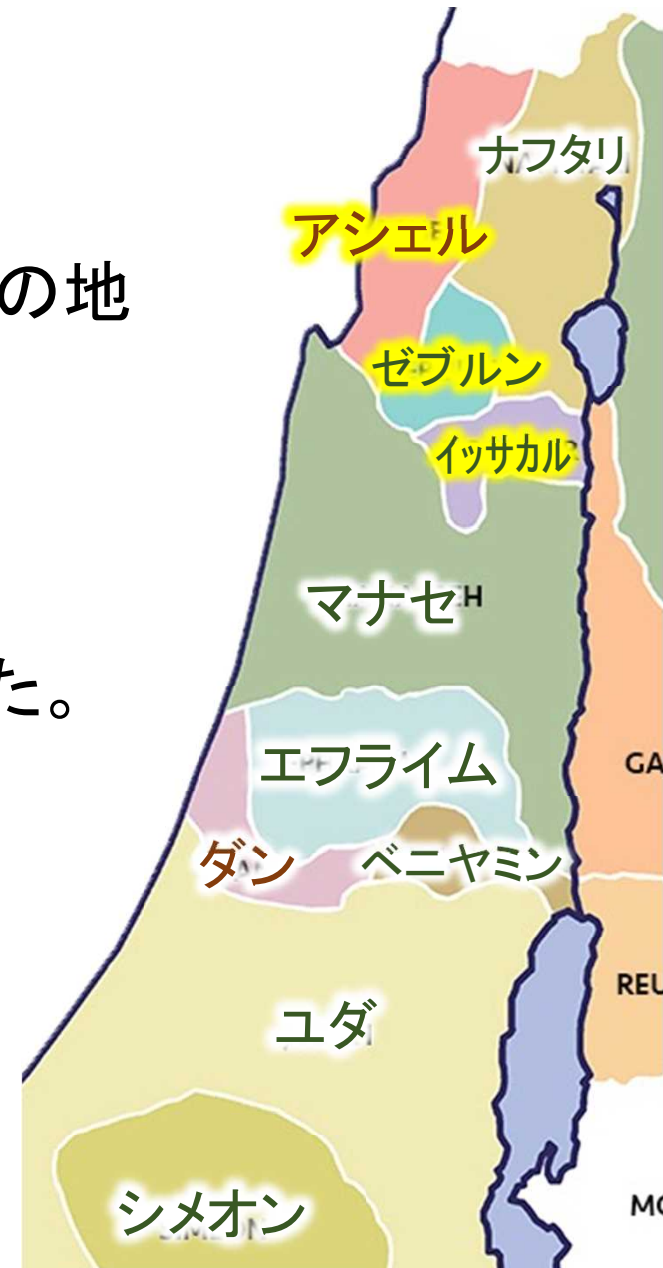
丘陵地の間に広がる肥沃なイズレエル平原を得た。

【⑤アシエル族の相続地】 ヨシユア19:24～31

■ レアの女奴隷ジルバの子がアシエル。

地中海に面したシドン・ツロの地。

➡ 強大なシドン人の脅威にさらされる地。



【⑥ナフタリ族の相続地】 ヨシユア19:32～39

- ヤコブの第6子。ラケルの女奴隷のビルハの子。
ヘルモン山の麓からガリラヤ湖畔まで。
水も豊かで、豊かな平野も広がる地。

【⑦ダン族の相続地】 ヨシユア19:17～22

- ヤコブの第5子、ラケルの女奴隷ビルハの子。
当初得た地は、強敵ペリシテ人の地にまたがり、
極めて厳しい土地だった。
➡後に、ナフタリ族の隣。ヨルダン川東岸に移動。



【ヨシュアを受領地】 ヨシュア19:49～50
地を地域ごとに相続地として割り当て終えたとき、イスラエルの子らは、自分たちの間に一つの相続地をヌンの子ヨシュアに与えた。
【主】の命により、ヨシュアが求めた町、すなわち、エフライムの山地にあるティムナテ・セラフを彼に与えた。彼は町を建てて、そこに住んだ。

- ヨシュア自身は、小さな土地を最後に得た。同族のエフライムが不平を言った山地で、山を拓き、町を築いた。
- こうして、全12部族の相続地が定められた。



Ⅲ. まとめと適用

ヨシュアが手にした真の相続地
御国の約束に立ちつつ



【ヨシュアに学ぶこと】

- イスラエルの戦いを導いたヨシュア自身は、最後に小さな土地を得た。
同族のエフライム族が、不平を言った山地で、山を拓き、町を築いた。
ヨシュアは、最後まで、主に従い、困難な使命に向かい続けた。
- ヨシュアが、常に求め続けたのは、主の御心。
ヨシュアが、最優先にしたのは、主に従い、使命を果たすこと。
- 12部族の相続地の分割は、幕屋の主の栄光の前で、成し遂げられた。
常に主のご計画が先にあり、神の目にすべては成し遂げられている。
➡目の前には、未征服地・克服すべき個々の課題が、私たちにはある。
約束の成就を信じて、目の前の一步を踏み出すよう、求められている。

【私たちに約束された相続地、そして私たちの内なる未征服の地】

- 墮罪以降、サタンに占領されたその地を、主イエスは、犠牲を払い、取り戻された。いまだ不法占拠するサタンを、再臨の主は打ち倒される。来たるべき御国で、信じた一人一人に約束された相続地がある。
- 福音を信じて、主のものとされてなお、私たちの内に残る未征服の地がある。聖霊の助けを求めつつ、未征服地を支配していこう。
- あなたの中の未征服地とは何だろうか？ 自分の弱さ、欠けを吟味しよう。
- 自分で自分を変えられない。時間、労力、お金、与えられた恵みを、主に献げていこう。御言葉を学び、繰り返し味わい、日々のただ中に適用し、生かしていこう。信仰者の課題は、信仰の歩みによってのみ、解決される。
- 信仰者は、具体的に歩み出すからこそ、変えられていくのだと覚えよう。

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

イスラエルに与(あた)えられた相続地(そうぞくち)のように、わたしにも、天の御国(みくに)での相続地(そうぞくち)が たしかに約束(やくそく)されています。わたしは、すべての主のものです。

いまだに残(のこ)るわたしの中の未征服地(みせいふくち)を、どうか、御霊(みたま)の助(たす)けによって、あなたが支配(しはい)してください。ヨシュアのように、ただ主に信頼(しんらい)し、使命(しめい)に生きる者としてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」